

ニホンジカ対策の基礎知識



■ ニホンジカ（シカ）の特徴 ■

- 木の葉や果実、花、根など、毒のある植物以外なんでも食べる
- 餌が少ないと樹皮や落ち葉を食べて生きていくことも可能
- 下部等からの潜り込みが得意
角の生えたオスでも30cmほどのすき間があれば、器用に潜り込む
- 2mほどジャンプすることが可能
- メスは栄養条件が良いと、1歳半頃から毎年出産可能
- 年1回(初夏)子どもを1頭出産
- 人の生活圏に近づく場合は、人目が少ない夜間が多い
- 単独や子連れなどの群れで行動
良いエサ場(牧草地等)では数十頭を超える集団になることもある

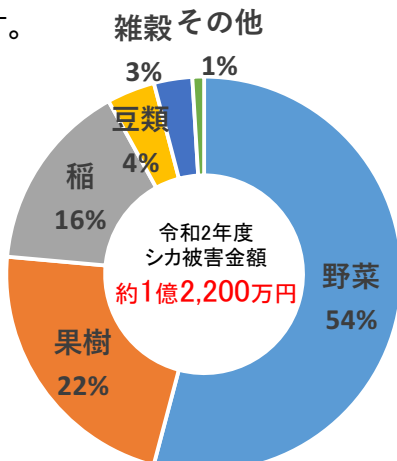
【 ニホンジカ Sika Deer 】

- ▶学名: *Cervus nippon*
- ▶分布: 北海道・本州・四国・九州・屋久島 など
エゾシカ、ヤクシカ、ツシマジカなどいくつかの亜種に分かれています。
- ▶体長: 100~160cm
- ▶体重: オス40~100kg メス40~70kg
大きさは地域によって異なります。
オスは毎年生え変わる枝分かれした角を持ちます。メスには角がありません。

■ 被害状況 ■

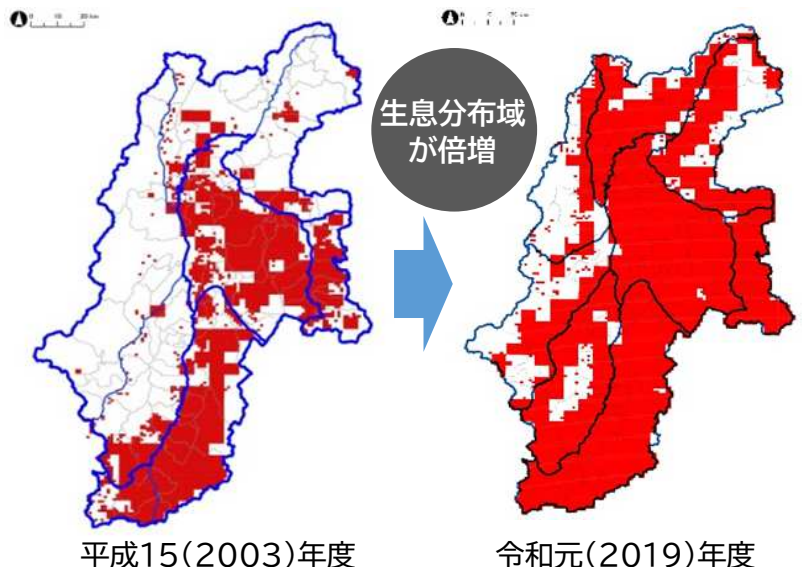
長野県では、令和2年度の獣による被害額が約3億3千万円でした。そのうち、シカによる被害額は約1億2,200万円でした。

作物別では、野菜や果樹、水稻への被害が多く、次いで豆類、雑穀となっています。



■ 県内のシカの生息分布 ■

シカの生息分布は、平成15年度と比較すると、メッシュ数が倍増し、現在では県内全77市町村で生息が確認されています。



被害対策 4つのポイント

シカの被害を減らすには、以下のポイント1~4を集落ぐるみで総合的に取り組むことが効果的です。

ポイント 1

シカ（相手）をよく知る

- ・まず、シカの習性をよく知ることが、被害を減らす近道です。
- ・集落で勉強会を開きましょう。

ポイント 2

シカを集落に寄せ付けない（環境管理）

- ・野菜くず、廃果、収穫しない果樹、被害を受けた作物等の放置は、シカのエサとなり、集落内での**無意識な餌付け**につながります。
- ・稲の落ち穂、二番穂、冬の青草は、餌が少ない時期のシカにとって貴重なエサとなり、**シカを増やすことにつながります**。
- ・シカを集落に寄せ付けないため、野菜くず等の適切な処理、不要な果樹の伐採、稲刈り後の耕起等を行って、**集落内のシカのエサを減らしましょう**。

ポイント 3

防護柵で囲う

- ・シカの習性を踏まえた防護柵で囲って侵入を防止しましょう。
- ・適切な柵の選定、正しい方法での設置、こまめな維持管理が重要です。

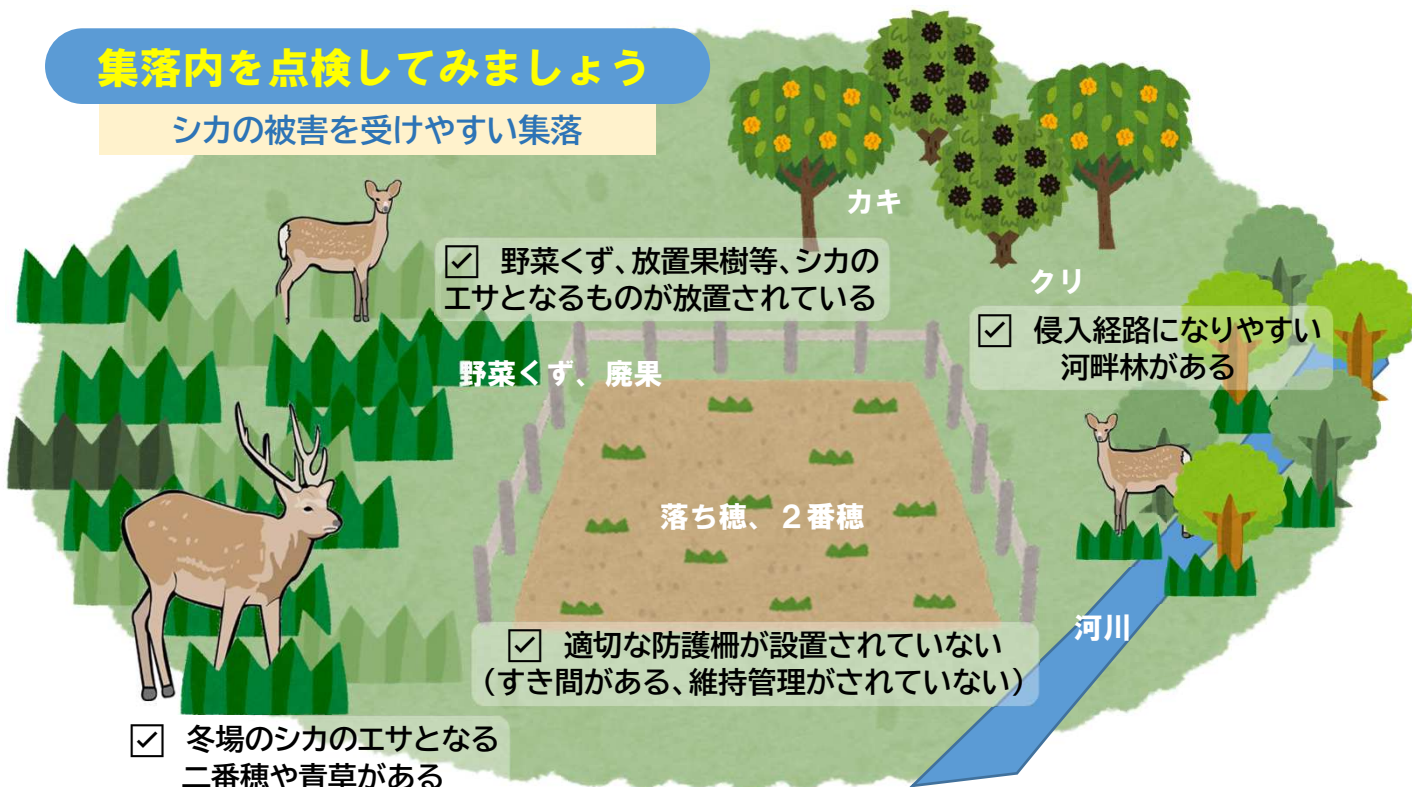
ポイント 4

適切な捕獲

- ・シカは、生息数が多いと捕獲しても別の個体がやってくる可能性があるため、数を減らすための捕獲も必要です。
- ・農地に侵入してくるシカは、野菜などを食べて栄養状態が良くなり、どんどん増えるため、環境管理や防護柵設置とあわせた対策が重要です。

集落内を点検してみましょう

シカの被害を受けやすい集落



■ 主な防護柵の種類と特徴 ■

ワイヤーメッシュ柵



【特徴】

- ・比較的安価
- ・維持管理が容易
- ・耐久性が高い。
- ・運搬、設置の労力がかかる。

【ポイント】

- ・潜り込み防止のため、地際はしっかり埋め込むか、外側に折り返してアンカーで固定
- ・上部を少し外側に折り返すと飛び越えにくくなる
- ・高さ2m以上、網目10cm以下

電気柵



【特徴】

- ・比較的安価
- ・設置、撤去が容易
- ・漏電防止のための除草管理が必要
- ・乾いた地面や舗装路に接するような電気を通しにくい場所への設置は不適。

【ポイント】

- ・電圧5000V以上の定期的なチェック
- ・高さ1.5m以上、5段張り以上
- ・電牧線は、支柱の外側に設置

ネット柵



【特徴】

- ・比較的安価
- ・設置が比較的容易
- ・耐久性が低い。
- ・かみ破られて突破される可能性がある。

【ポイント】

- ・高さ2m以上
- ・網目は角の引っ掛かり防止のため、5cm以下
- ・破られにくいステンレス線入りが望ましい
- ・潜り込み防止のため、地際を外側に折り返してアンカーで固定

金網柵



【特徴】

- ・耐久性が高い。
- ・設置、撤去、修理に労力がかかる。
- ・資材そのものや破損した場合の費用が高い。

【ポイント】

- ・集落柵に利用される場合が多いが、落枝、倒木等による破損に注意
- ・地際はしっかり埋めるか折り返す。
- ・高さ2m以上、網目は15cm以下。

■ 個別柵と集落柵(広域柵) ■

- ・個別に農地を囲う個別柵は、普段の農作業時に破損などの問題にも気づきやすいですが、面積当たりの資材費用がかさみます。一方の集落柵(広域柵)は広範囲を守ることができ、費用面では補助金を活用することができるため、効率の良い方法ですが、集落での維持管理体制の整備、費用負担などの十分な話し合いが必要になります。
- ・集落柵の場合、設置ルート of 地形上の制約や道路、河川など柵ができない場所では個別柵を併用するなど、他の対策を組み合わせることが必要です。
- ・個別柵と集落柵のメリット・デメリットを認識し、選択する必要があります。

■ 集落柵の設置場所のポイント ■

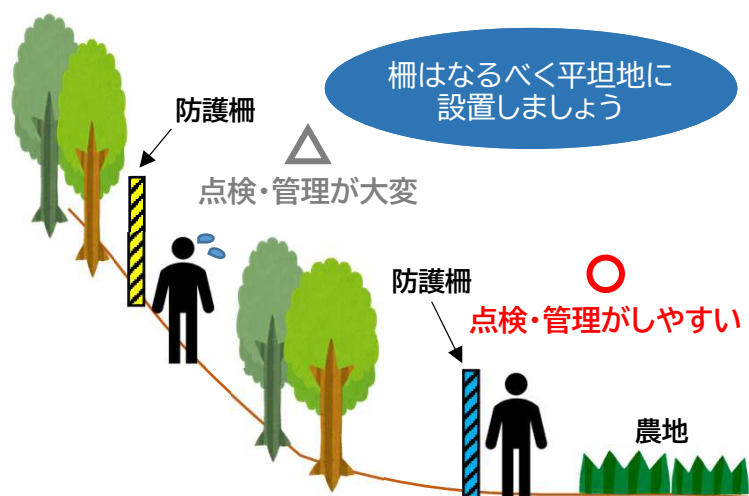
集落全体を囲う広域の集落柵は、大変効果のある対策の1つですが、設置後の点検・維持管理に多くの労力がかかることから、事前に設置場所をよく検討することが重要です。

集落柵は、十数年間の点検・管理を見据えた設置場所の選定が重要

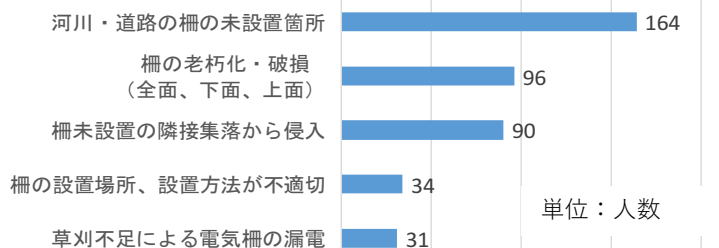
- ・集落柵は設置後、年に何度も柵の周囲を歩いて点検・管理を行う必要があります。
- ・このため、山の斜面に柵を設置をすると、点検作業や補修の際の労力が大きく、危険も伴うため、維持管理が困難となります。
- ・集落柵は、なるべく平坦地の点検・管理がしやすい場所に設置しましょう。

集落柵設置後、獣類に侵入されやすい場所は河川・道路

- ・集落柵を設置した集落にアンケート調査を行ったところ、獣類に侵入された場所は、「河川・道路」が最も多い結果となりました。
- ・集落柵のみで河川、道路を含む地域全体の被害を防ぐことは困難です。このため、侵入ルート付近でわなによる捕獲や個別柵の設置、ヤブ払い等の環境管理といった他の対策を組み合わせることが有効です。



■ 「集落柵で獣類の侵入を防げない場所」の回答結果 ■



(R3県集落アンケート調査結果より)

Q & A

Q:雪が多い地域での対策はどのような点に注意すればよいか？

A:設置や撤去がしやすい電気柵が効果的です。雪解け後はできるだけすぐに設置して通電を開始し、雪が降る前に撤去しましょう。農地が自由に出入りできる場所であると動物に認識させないことが重要です。

Q:シカやイノシシだけでなく、サル、クマ、中型獣など、複数の動物の被害を防ぐことができる柵はあるか？

A:複数の動物の被害を防ぐことができる複合柵もありますので、どんな動物が被害を出しているか、しっかり調べて柵の構造を決めましょう。また、柵のみで全ての被害を防ぐことは困難ですので、環境管理で動物を集落に近づけにくくする工夫や、必要に応じた捕獲を組み合わせる総合的な対策が有効です。

Q:音やニオイ、光による対策が効果的と聞いたが...

A:動物は初めての物に警戒しますが、しばらくすると慣れてしまいます。

【慣れが生じる対策例】

人の髪の毛、オオカミのおしっこ、ライオンの糞等を置く対策、オオカミの鳴き声など